

# さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会  
会長 福田 隆一  
編集: 三和地区社協 広報部  
事務局: 三和保健福祉センター内  
(サンハート内)  
電話: 0436-37-7100

## 少子・高齢化顕著な三和地区

三和地区社会福祉協議会では、生活支援部を担当しております。生活支援部の取り組みをご紹介します前に、まず私たちの暮らしと三和地区の地域事情をお話しさせていきます。私たちの三和地区は、市西・養老・海



生活支援部 部長  
小田 満寿男

## 地域の特性に見合う 生活支援の在り方考察

上・光風台の四小学校区の地域集合体です。下段のグラフは市原市ホームページの地区別人口動態調査を基に、各区の年齢分布をグラフ化したものです。このグラフから、端的に言えることは、年少人

口が極めて少ない一方、六十五歳以上の人口は地区別で三位。居住者の四十二%が高齢者層で占められていた実情を踏まえ、こうした生活支援の在り方や諸施策が求められることとなります。

## 買い物ツアー試行中

生活支援部では、現在、買い物ツアー(社会福祉法人の車両による買い物送迎)を光風台小域福祉ネットワークと連携し、モデル

ケースとして取組んでいます。利用者からは好評を頂いておりますので、残る三和地区へも取組みを拡大する方向を考えて参ります。



社会福祉法人ひまわりの車両でお買い物

## 互いに協力・心に若さ 健康スマイルに励む

市原市老人クラブ連合会三和支部、支部長を務めます山田です。三和支



三和支部 支部長  
山田 敏雄

部は、松崎町会の春日会、磯ヶ谷町会の寿会、山田町会の神明クラブ、光風台地区の光友会等で構成されておりますが、神明

会の代表者が急逝され、後任者が決まらぬまま退会となり、現在は三町会での構成となっております。

三和地区内には、多くの老人会がありますが、全体としての組織化に至らず、支部としては残念ながら現状の姿です。でも健康で有りたい、元

気で過ごしたい、この思いは誰しも共通。みんなの思いを互いに協力し合うことで体力を養い、何よりも心の若さを失うことの無いよう、健康スマイルづくりに励んでいます。みなさんも仲間の輪(和)に入りませんか？

## 健康で有りたい・思いは共通 市原市老人クラブ連合会三和支部



市老連三和地区研修見学ツアーの1コマ



負荷を掛けてのノルディックウォーキング



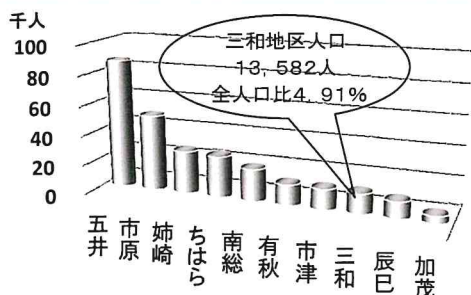
グランドゴルフ大会時のラジオ体操



歩くこともまた楽し

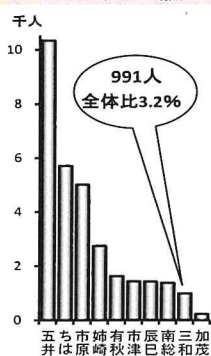
いちはら  
クオードの森  
GOLF

出典: 市原市地区別人口動態調査2021年1月現在より

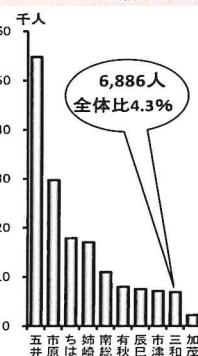


1. 地区人口比較(市全対人口273,771人)

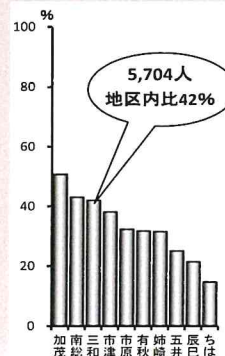
2. 地区年少人口比較  
(0~14歳)



3. 地区生産人口比較  
(15歳~64歳)



4. 地区別高齢化率  
(65歳以上)





# 回顧録



千葉県野球協会  
理事長 阿部 孝

公益財団法人全日本軟式野球連盟  
関東軟式野球連盟連合会 理事

シリーズ ④  
完結編

千葉県は、昭和四十八年と平成二十二年に国体開催県を担ってきました。その翌年、平成二十三年に、私は千葉県野球協会理事長に就任しました。県理事長には三つの顔があります。一つは本務である協会の運営であり、二つ目は、千葉県高等学校野球連盟(高野連)の理事。三つ目は、関東軟式野球連盟(関東連盟)の理事です。それぞれにおいて、私の立場や立ち位置は異なるものの、共通的に言えることは組織の効率的な運営について、無駄を省き、大会関係者や選手が伸び伸びとプレーに専念できる環境を整えることです。このため、三つの顔から学び得た経験は、その後の会議運営や組織運営を改革へと導く大きな力となりました。取分け、関東連盟でのつながりでは、立場を同

## 県理事長には3つの顔あり 立場を通じ多くの知人友人に恵まれる

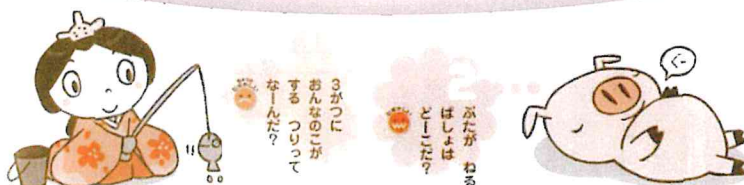
よくする多くの知人・友人に恵まれ、その優れた競技運営や組織運営は、本県の運営へも取り込み組織機能を高めることへもつながりました。私の県理事長就任中の足跡の中でも、印象深きことを挙げるならば、千葉県代表チームの全国制覇です。天皇賜杯軟式野球全国大会へ出場した県代表の京葉銀行チームは、平成二十五年の開催県・島根大会に続き、同三十年の山形大会でも、優勝の栄冠に輝き、通算では八度目の優勝(全国一)を達成。その瞬間は選手ならずとも大きな感動を刻んだことが思い出されます。人生に紆余曲折はある

ものの、時の流れはよどみなく、昭和四十二年、市役所の野球チームマネージャーから始まった私の野球人生も早半世紀。大会の都度、家を空けることも多かった私ですが、常に快く送り出してくれた家人の理解と協力に、内心では率直に感謝しています。私は本年、理事長職を辞し、後人に道を託しましたが、これからは健康維持と体力づくりにも励み、いつまでも野球場に通い続けたいと思っています。この一年、四回シリーズで取上げて頂いた「さわかぜ」編集委員の皆様へも感謝申し上げます。【次号より新シリーズが始まります。】

## 世代間交流事業

主催：三和  
保健福祉センター

## 元気に「ちびっ子」クイズラリー



11月14日、三和コミュニティーセンター体育館で、世代間交流事業「ちびっ子クイズラリー」が開催されました。当日は参加者親子に加え、ペアを組む世代の異なる皆さんも協力し合ってクイズに挑戦！体育館いっばいに広がったクイズの島めぐりをしながらゴールを目指しました。



この日の参加者はおよそ五十人。ゴール後は、みんなでおしゃべりや、結果は全員正解でした。(世代間のチームワークが見事に機能)子ども達には手作りのメダルも贈られ、「楽しかったよ」「かんたんだった！」「嬉しそうなお笑いがこぼれる一方、ペアになった高齢者の方々からも「お蔭で楽しいひと時が過ごせたわ」との声。笑顔が印象的でした。【取材：渡邊編集委員】



体育館でのびのび！



【 長い石段もきれいに清掃 】



【 雨が降ってもかかせない会員親睦 】

互いの親睦深める  
何よりも大切に



一の会は、山倉町会内に組織された、いわゆる老人クラブで、毎月一日に集まり活動するクラブです。老人クラブと称するとまだ、そんな歳ではないと入会に難色を示す方がいますが、「一の会」と称することであり、抵抗なく入会できるのか、はたまた月一回の活動のせいですが、本年も七名の新規加入があり、現在六十代から八十代の三十二名で活動しています。活動は毎月の春日神社清掃奉仕、公民館前広場清掃、十月には神社のしめ縄づくりですが、何より大事にしていることは、作業後の会員どおしの親睦を深めることです。そのため、雨で作業ができない時も公民館に集まり、昼食を兼ねた親睦会を行います。現役をリタイヤした人達にもう一度、地域の中で集まる機会を設け、町会の中で現役時代とは違った環境で活動すること、町会・地域を少しの思いで活動しています。



山倉町会/一の会  
会長 鈴木 章生